

イメージキャラクターの活用等を通しての、社会資源としての社会的役割の発揮

法人組織の中で組織ラインに属さず、グローバルな視野を持って施設内にとどまらない地域の福祉研修室としてあるために、完全に独立し職権も持った研修室を設立して活動を行っている。日常的な継続性をもった社会活動を目指し、イメージキャラクターを作成したり、情報誌の発行等を行っている。

長崎県

社会福祉法人

佐世保白寿会

〒858-0922 長崎県佐世保市鹿子前町904-1

TEL: 0956-28-1181 FAX: 0956-28-1610

○法人設立年/昭和42年

○法人実施事業

- ①経営施設数合計: 2施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】:
特別養護老人ホーム…1、介護老人保健施設…1、
居宅介護支援事業所…2、訪問介護事業所…1、
短期入所生活介護事業…1、短期入所療養介護事業…1、
通所介護事業…1、通所リハビリテーション事業…1、
認知症対応型通所介護事業…4

○法人の理念・経営方針

【基本理念】: 私たち職員は清潔で安全な環境の下、思いやりと笑顔をもってご利用者に全人的な介護サービスを行い、又、地域社会の一員として時代に即した社会貢献を目指します。

【基本方針】

1. 私たちはケアプランに基づいて日常生活の支援を行い、ご利用者がその有する能力に応じて尊厳ある生活を営むことができるように支援いたします。
2. 私たちはご利用者の気持ち及び人格を尊重し、ご利用者とご家族の立場に立って介護サービスの提供に努めます。
3. 地域住民及び関係機関との密接な連携を図り、地域に開かれた施設(事業所)づくりを目指します。
4. 私たちは全職員が持ち得る力を結集して、豊かな人間性・専門的知識・技術の研鑽に努め、信頼され選ばれる質の高い施設(事業所)づくりを目指します。

○取り組みの法人での位置づけ等

白寿荘の研修室としてだけでなく、社会資源であることを意識し、地域社会における福祉の研修室としての役割を果たし、また地域社会とのかかわりを持って、ご利用者の生活の質・内容の向上に繋げ、施設におけるご利用者の社会的生活の長期的実現を目指し、実施している。

○取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

特別養護老人ホーム 白寿荘

【施設種別及び利用定員】

特別養護老人ホーム 200名

○活動内容

◇活動開始年: 平成20年1月

◇活動の対象者:

ご利用者、地域社会の一般住民、地域児童

◇活動の頻度・時間:

活動の中心となる「くるるの日」は年3

回程度。1回あたり1時間程度。

前提となる打ち合わせは月1回の「学校

支援会議」を始め、月1~2回程度の打ち

合わせを行い、グローバルな視野をも

って社会、特に小学校とのコミュニケー

ションを図っている。

なお、日常的な関わりも多く、施設及び

小学校の互いの行事には相互に参加し合

っている。

活動実施の背景、実施にいたった理由

近隣に小学校があり、社会見学の受け入れなど行っていたが、継続的でなくボランティアの受け入れ等も単発的であった。

しかし、古き良き日本では近所には高齢者から子供まで関わりを持ちながら生活し、それを成長の糧とし、また生きがいを持って生きた時代であった。核家族化の中でその失われた良き伝統を復活させ、要介護状態にあるご利用者が社会的な生活を営めるようにする。そのための職員育成や地域社会との関わり方は、断片的に定着が難しく、組織の部署の枠を超えた専門性や意識が必要であった。また、地域の子供達が、将来の社会の担い手であり、福祉従事者であり、そして地域社会の希望である。

これら総合的な観点から研修室設立に至り、その活発な活動を行ってきた所以である。

実施内容

活動を行うにあたり、社会から疎遠に感じられやすい福祉施設の印象を払拭し、外部からも関わりやすいイメージを構築するために、白寿荘イメージキャラクター「くるる」を作成し、期待以上の効果を上げている。

①くるるの日

小学校児童とご利用者との交流会を年間計画の中に入れて計画的に実施している。ご利用者が学校へ出向きわらじ作り教室を開催したり、児童が施設へきてレクリエーション等を行ったりしている。

②夏祭りに小学校児童とご利用者の合同の出し物を披露

数回の合同練習の際、ミニこども教室(お年寄りとは…等の話)を行う。

③夏休み

くるるのラジオ体操カード配布している。

④月1回の放課後こども教室運営委員会への参加
月1回開催される委員会の推進委員メンバー
(校長・教頭・児童委員・民生委員・婦人部・
老人会・PTA会長・白寿荘)に加わり、検討
している。

前述の小学校とのコミュニケーションを起点に、
ご利用者の地域への社会参加の機会が増加し、同
時に児童を介し地域オピニオンリーダーが自然な
形で施設へ関わりを持ち、その思いや考えを汲ん
だ事業活動を推進している。加えて、市内全域に
無料で配布されている情報誌(月1回発行)に
「くるる通信」として高齢者の食事、杖や靴の選
び方等の情報提供を行っている。

活動効果(利用者や職員、地域などの反応、影響)

白寿荘のイメージキャラクターである「くるる」
がこども達やご利用者の中で浸透してきて、それ
が地域全体へと広がりを見せ、施設が親しみのあ
るものとして地域の中に定着してきている。交流
の日にその名をとって「くるるの日」と命名され
る等、地域交流のシンボリックな存在ともなってき
ており、さらに効果が期待できると感じている。

ご利用者にとっても小学校がとても身近なもの
となっており、交流を純粋に楽しんでいると同時
に、そのことが地域社会の一員であることの実感
に繋がり、生きがいとして施設生活支援の一端を
担っている。また、地域学童の保護者が是非とも
施設との関わりを子供達に持たせたいと満場一致
で決議してもらえたことは、この取り組みが間違
ってなかったことの証明となった、と実感してい
る。

さらには、活動の中で施設内においては感じる
ことが出来ない地域社会の「思い」を感じること
ができ、それを事業そのものに取り入れ発展する
ことができたことは、白寿荘にとって大きな収穫
であった。

今後の課題及び展開

イベントは楽しみや交流の活性化のために行っ
ていくが、それ以外の日常的な関わりを大切に育
てていく予定である。ご利用者には、社会交流の
中から、生きがいや生きる楽しみ・目的を見出し

ていただき、その生きがい楽しみに生きることを
総合的に支援する体制を構築したい。また、核家
族・共働きの家庭の中で育つ児童達には、利用者
がまっすぐにその子自身を見つめていくことで、
その成長を支援することができればと考えている。

少しずつ、外部から福祉に関する情報発信を行
ってきた。その結果、具体的なテーマをもって関
わりを求められるに至ってきている現状は評価で
きる。さらにこの先を進めていきたいと考えている。

主な経費や財源及び人員等

(年間あたり)

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
地域交流費	概算 (下記内訳)	施設負担	115,000円
夏祭り	20,000円		円
キャラクター関連	50,000円		円
ラジオ体操カード	25,000円		円
その他	20,000円		円
<合計>	115,000円	<合計>	115,000円

- ・取り組みに係わった職員数 全職員
(職種等：事務・生活相談員・機能訓練指導員・介護
員・介護支援専門員)

